

診療科目 ● 眼科学（視覚再生外科学）

プログラム責任者：門之園 一明

附属市民総合医療センター（視覚再生外科学）	
主任教授	門之園 一明（眼科部長）
助教	山根 真、井上 麻衣子、佐藤 新兵

本プログラムの特徴
<p>【視覚再生外科】眼科学はいくつかの subspecialty（細専門分野）がある。その中でも、網膜と緑内障を対象として主な診療を当教室では行っている。専門医思考者は、本プログラムにおいてあらゆる網膜疾患の診断を治療を学ぶことになる。具体的には、加齢黄斑変性症、黄斑部手術系疾患、黄斑部内科治療系疾患、網膜剥離、糖尿病網膜症、遺伝性網膜疾患、眼外傷が対象疾患として含まれる。本プログラムの特徴として、これらの疾患の診断技術と初歩的な治療方法を十分に習得することが出来る。具体的には、眼底画像診断技術、網膜観察手技、硝子体体内注射、単純硝子体切除術、硝子体手術周術期管理などである。研究発表の機会も多く、国際学会にも積極的に参加している。福浦病院眼科との総合乗り入れによりより広範囲の眼科学を習得することが可能である。</p>

診療科のホームページ URL	担当者・連絡先
http://ycu-ganka.jp/	視覚再生外科学医局長 山根 shinyama@yokohama-cu.ac.jp

指導医から一言
<p>【視覚再生外科】当教室では眼科治療の中でも特に手術治療に重点を置いており、難症例を含め多数の手術を行っているという特色があります。シニアレジデントはまず一般眼科医として必要な知識とスキルを身に付けていただきます。外来診療、レーザー治療、検査などは症例が豊富なため早い段階で身に付けられると思います。手術はマンツーマンで指導しますが、自身で執刀する前に手術助手に入って勉強してもらい、豚眼を用いた模擬手術実習で練習します。外来診療では毎日担当の指導医が決まっております。難症例に関して相談できる体制ですが、屋根瓦方式の教育体制で、すぐ上の先輩医師になんでも相談できるようにしています。診療と併行して学会発表や論文執筆も行い、リサーチカンファランスでディスカッションすることで質の高い発表ができる様サポートしています。専門医取得後にそれぞれ専門分野を選択するか一般眼科医としての道を選びます。通常2年間大学病院で研修した後関連病院で経験を積み、その後大学病院で専門性の高い治療にあたります。産休、育休を取られる場合には医局全体でサポートし、復職の手助けをします。眼科は様々なスタンスでの診療が可能であり外来診療、手術、研究の比率を選択することができます。やる気のある先生にはどんどんチャンスが巡ってきますので是非等教室で自身の才能を伸ばし、社会に貢献できる医師になっていただきたいと思っております。</p>

シニアレジデントからのメッセージ
<p>【視覚再生外科】〈シニアレジデント 1〉シニアレジデントは、曜日ごとに午前と午後で一般外来や検査、手術と分かれて診療を行うというスケジュールです。症例数が大変多いため、たくさんの症例を経験することができますし、いろいろな分野の専門外来があるため、ひとつの分野に偏った症例ばかりではなく、幅広い分野の症例を経験することができます。大学病院であるため、重症な症例や緊急手術が必要な症例も数多く経験できます。勉強会やカンファレンスでは、個々の症例について検討し、貴重なアドバイスもして下さるので日々の診療に役立つ知識を得る場として大変有意義です。また、定期的にウェットラボが開かれており、豚眼で白内障手術の手技を学ぶことができます。院外で開催される講演会に参加する機会も多く、いろいろな先生方と知り合うことができる点も良いと思います。医局の雰囲気は明るく、話しやすい先生方ばかりなので、とても働きやすい場であると感じています。眼科医としての専門性を高める上でとても良い場だと思います。</p> <p>〈シニアレジデント 2〉シニアレジデントは外来、病棟業務、手術の助手、蛍光眼底造影検査・硝子体体内注射・レーザーなどの検査や処置を1年目から行います。初めはわからないことだらけで不安ですが、上級医にも気軽に相談でき、アドバイスをもらえるので、大きく困ることなく力をつけていくことができます。大学病院なので専門的な疾患も多く、様々な症例を経験できますし、分野によっては最先端の治療も真近で見ることができます。手術の指導も1対1でしてもらえ、白内障手術も1年目から経験を積むことができます。僕が当院で研修することを決めたのは、力が着きそうだったことと、相談しやすく雰囲気がいいと思ったからです。実際その通りでした。2年目になった今は、去年よりは余裕ができ、日々診療していく上で色々なことに興味がわき、やはり眼科はおもしろいと感じています。</p>